

26.あの時不信心な者たちは、胸の中に慢心の念を燃やした。ジャーヒリーヤ（時代のような）無知による慢心である。それでアッラーは、使徒と信者の上に安らぎを下し、かれらに自制の御言葉を押し付けられた。これはかれらがその（安らぎ）に値し、またそれを受けるためであった。アッラーは凡てのことを知っておられる。

27.本当にアッラーは、使徒のためにかれの夢を真実になされた。もしアッラーが御望・なら、あなたがたは、安心して必ず聖なるマスジドに入り、あなたがたの頭を剃、または（髪を）短かく刈り込んで（ハッジやオムラを全うする）。何も恐れることはないのである。かれはあなたがたが知らないことを知っておられる。そればかりか、かれは手近な一つの勝利を許された。

28.かれこそは、導きと真実な教えをもって、それを凡ての宗教の上に宣揚するため、かれの使徒を遣わされた方。本当にアッラーは立証者として万全であられる。

29.ムハンマドはアッラーの使徒である。かれと共にいる者は不信心の者に対しては強く、挫けず、お栗いの間では優しく親切である。あなたは、かれらがルクウしサジダして、アッラーからの恩恵と御満悦を求めるのを見よう。かれらの印は、額にあるサジダによる跡である。（ムーサーの）律法にも、かれらのような者の譬えがあり、（イーサーの）福音にも、かれらのような譬えがある。それは蒔いた種が芽をふき、丈夫な茎を伸ばして、種を蒔いた者を喜ばせるようなもの。それで不信者たちは、かれらに憤激することであろう。だがアッラーは、かれらの中で信仰して善行に勤しむ者に、容赦と偉大な報奨を約束なされる。

SURA 49.部屋章〔アル・フジュラート〕

慈悲あまねく慈愛深きアッラーの御名において。

- 1.信仰する者よ、あなたがたはアッラーとその使徒を差し置いて勝手な振舞いをしてはならない。アッラーを畏れなさい。本当にアッラーは全聴にして全知であられる。
- 2.信仰する者よ、あなたがたの声を預言者の声よりも高く上げてはならない。またあなたがたが栗いに声高に話す時のように、かれに大声で（話して）はならない。あなたがたの気付かない中に、自分の行いを虚しくしないために。
- 3.本当にアッラーの使徒の前でその声を低くする者は、アッラーがその心の敬虔さを試・られた者である。かれらには、赦しと偉大な報奨があろう。
- 4.本当に部屋の外から大声であなたを呼ぶ者の多くは、思慮分別のない者である。
- 5.もしかれらが、あなたの出て来るのを待つならば、それはかれらのためにも良い。本当にアッラーは寛容にして慈悲深くあられる。
- 6.信仰する者よ、もし邪な者が情報をあなたがたに(偽?)したならば、慎重に検討しなさい。これはあなたがたが、気付かない中に人びとに危害を及ぼし、その行ったことを後悔することにならないためである。

7.あなたがたの間にアッラーの使徒がいることを知れ。かれがもし多くの事柄に就いてあなたがたに従ったならば、あなたがたはきっと不幸に陥ったことであろう。だがアッラーは、あなたがたに信仰を好ましいものとなされ、またあなたがたの心を、それに相応しくして、あなたがたに不信心と邪悪と反逆を嫌うようになされた。これは正しく導かれた者である。

8.それもアッラーからの御恵・であり、恩恵である。アッラーは全知にして英明であられる。

9.もしも信者が2つに分れて争えば、両者の間を調停しなさい。もしかれらの一方が他方に対して、（一方的に）無法なことをするならば、無法者がアッラーの命令に立ち返るまで戦いなさい。だがかれらが立ちかえったならば、正義と公平を旨としてかれらの間を調停しなさい。本当にアッラーは公正な者を愛される。

10.信者たちは兄弟である。だからあなたがたは兄弟の間の融和を図り、アッラーを畏れなさい。必ずあなたがたは慈悲にあずかるのである。

11.信仰する者よ、或る者たちに外の者たちを嘲笑させてはならない。それら（嘲笑された方）がかれらよりも優れているかも知れない。女たちにも外の女たちを（嘲笑させては）ならない。その女たちがかの女たちよりも、優れているかも知れない。そして栗いに中傷してはならない。また綽名で、罵り合ってはならない。信仰に入った後は、悪を暗示するような呼名はよくない。それでも止めない者は不義の徒である。

12.信仰する者よ、邪推の多くを祓え。本当に邪推は、時には罪である。無用の詮索をしたりまた栗いに陰日してはならない。死んだ兄弟の肉を、食べるのを誰が好もうか。あなたがたはそれを忌・嫌うではないか。アッラーを畏れなさい。本当にアッラーは度々赦される方、慈悲深い方であられる。

13.人びとよ、われは一人の男と一人の女からあなたがたを創り、種族と部族に分けた。これはあなたがたを、栗いに知り合うようにさせるためである。アッラーの御許で最も貴い者は、あなたがたの中最も主を畏れる者である。本当にアッラーは、全知にして凡ゆることに通曉なされる。

14.砂漠のアラブたちは、「わたしたちは信仰します。」と言う。言ってやるがいい。「あなたがたは信じてはいない。ただ『わたしたちは入信しました』』とだけ言っているだけで、信仰はまだあなたがたの心の中に入っていない。もしあなたがたが、アッラーとその使徒に従うなら、かれはその行いに就いて、少しも（報奨を）軽減されることはない。本当にアッラーは寛容にして慈悲深くあられる。

15.本当に信者とは、一途にアッラーとその使徒を信じる者たちで、疑いを持つことなく、アッラーの道のために、財産と生命とを捧げて奮闘努力する者である。これらの者こそ真の信者である。」

16.言ってやるがいい。「あなたがたは自分の宗教を、アッラーに教えようとでも（思うのか）。アッラーは天地にある凡てのものを知っておられる。本当にアッラーは凡てのことを熟知しておられる。」

17.かれらは、自分がイスラームに帰依して、あなたに対する恩を施したように思っている。言
ってやるがいい。「あなたがたの帰依は、わたしへの恵・とはならない。もしあなたがたが真実
(帰依した)なら、アッラーは、あなたがたを信仰に導くことを、あなたがたへの恵・となされ
るのである。」

18.本当にアッラーは、天と地の奥義を知っておられる。アッラーは、あなたがたの所行をよく
洞察なされる方である。

SURA 50.カーフ章

慈悲あまねく慈愛深きアッラーの御名において。

- 1.カーフ。栄光に満ちたクルアーンによって誓う。
- 2.いや、かれらは自分たちの間から一人の警告者が現われたことに驚き、そこで不信心な者たち
は言う。「これは全く不思議なことである。
- 3.わたしたちが死んで塵になって（また甦るの）か。それは（理解出来ない）とんでもない甦り
である。」
- 4.われは大地が、かれらを如何に蝕・去るかを知っている。またわが手許には、（凡ゆる始終の
）記録の帳簿がある。
- 5.真理が訪れた時、それを虚偽としたので、かれらは混乱状態に陥った。
- 6.かれらは頭上の天を見ないのか。われが如何にそれを創造し、如何にそれを飾ったか。そして
それには、少しの傷もないと言うのに。
- 7.また、われは大地をうち広げ、その上に山々を据え、様々の種類の美しい（草木）を、生い茂
らせる。
- 8.（それらは）悔悟して（主の御許に）返る凡てのしもべが、よく観察すべきことであり、教訓
である。
- 9.われはまた、祝福する雨を天から降らせて、果樹園や収穫の穀物を豊かに生長させる。
- 10.びっしりと実を付けた丈の高いナツメヤシの木は、
- 11.（アッラーの）しもべたちの食料。またそれ（雨）でわれは死んだ大地を甦らせる。呼出し
（復活）にしても同じようなこと。
- 12.かれら以前も、（使徒を）嘘付き呼ばわりした者があった。ヌーフの民も、ラッスの仲間も
サムードも、
- 13.またアードの民も、フィルアウンも、ルートの同胞も、
- 14.また森の仲間またトッバウの民も皆使徒を嘘付き呼ばわりした。だから（われの）警告は確
実に実現されてしまった。